

武士どうしの争いもあつたりで、さわがしい世の中でした。その間の旅ですからとても大変な旅でした。まさに旅は連歌師にとつて生命であつたのです。

兼載、三十八歳の延徳元年（一四九八年）、朝廷からお坊さんの位で五位にあたる法橋の位をさずけられました。また幕府からは宗祇の後をうけて花下宗匠という連歌師では最高の役に任せられ、同時に北野会所奉行という役を命ぜられました。これは連歌の中心である北野天満宮の連歌の集りをとりしきる役です。兼載は三十八歳の若さでした。ほかの人々はみな六十歳くらいになつて任命されていることを考えると、兼載のすぐれた才能が広くみとめられていたことがわかります。

兼載は喜びました。年が明けると、正月五日、さつそく北野会所開きの連歌会を行つて

けふひらく梅は千年のかざしかな